Sir Ludwig Guttmann:

Spinal Cord Injuries, Comprehensive Management and Research

中 村 裕

パラリンピック（脊髄損傷者のオリンピック）の生みの親としてグッドマン博士は有名である、彼の教えを受けた学者が世界各地に脊髄損傷センターを創立し活躍している。西独のハイデルベルクにあるGuttmann Centreは有名である。私も昭和35年の夏ロンドン郊外の国立脊髄センターを訪れて以来師事しているが、彼ほど脊髄損傷に生涯をかけた医師はないと思う。1923年よりBreslau大学で神経外科医として研磨をつめ、その後渡英して1944年2月にロンドン近郊100kmのStoke Mandevilleに国立脊髄損傷センターを創設され数年前まで所長として脊髄損傷の研究並びに臨床を一貫してやってこられた。今では脊髄損傷研究のメカととなり多くの医師が訪れる事を受けている。今退官されたが非常に元気で身障者の専門の体育館の館長をされており国際パラリンピック理事会や国際パラブレッジア医学会を主宰されている。昭和39年秋に行われた東京パラリンピックの折には彼が今迄脊髄損傷に深く関与した功績をたてた外人医師には見例の三等旭日章が授与されたが、英国でもその直後Sirの称号が贈られるように、今回彼が英国で国立脊髄損傷センターを創設して以来約30年間にとり挙げられた約4,000例にわたる脊髄損傷者の臨床と研究の成果を一冊の本にてまとめる。このほど出版されたが、694頁、8章、40節からなる書物で脊髄損傷の歴史に始まり、各国の脊髄損傷治療の現状についても広く述べられている。脊髄の解剖、神経生理、神経病理学等に明快かつ詳細である。彼はBreslau大学時代にはよく手術をしていた。然し現在は彼の豊富な経験から親身的観察の重視には極めて消極的である。初期療法は彼独自の2時間おきのPostural Reductionで見事な整復効果をあげている。最近はモーター利用の特殊ベッドを開発され便利になった。また合併症の予防又は治療、直腸、膀胱障害、性機能についての対策、心理的問題にまで及んで述べられている。

次いで理学療法や作業療法から、身体障害者スポーツについて彼独特の方法と理論が書かれる。特に心をひかれたのは第11胸臓以下完全麻痺の外科医の社会復帰の実例や特殊な装具を使って手術でも何でもしているのには驚嘆した。リハビリテーションは治療から社会復帰までとよく言われるが、この本は脊髄損傷に関するすべてがグッドマン博士の一生をかけた豊富な経験と実践に基づいて、その理論と実際がこの一冊の書物にまとめられている。この専門書は脊髄損傷に興味をもたれる医師のみならずPT、OT、などのパラメディカルの方々の書でありこれがによって最も気軽な脊髄損傷者の治療が正しく行われ社会復帰が達成されることを信じて疑わない。グッドマン博士が今後ともお元気で脊髄損傷の研究と実践活動を続ける多くの後進者に温かいご指導を賜わりますよう祈りつつ今日までのご努力に限りない賛辞をおくりたい。（社会福祉法人 太陽の家理事長 医療法人恵愛会 大分中村病院理事長）

（Ｂ5判、694頁、Blackwell Scientific Publications、London、医学書院洋書部扱）